

新型コロナワクチン接種がもたらしたものは？ 科学とファクトに基づいたドキュメンタリー『ヒポクラテスの盲点』公開決定

6/12 クランクイン



新型コロナワクチン後遺症の影響を、科学とファクトに基づき多角的な視点で描くドキュメンタリー『ヒポクラテスの盲点』が、今秋公開されることが決定した。

新型コロナウイルス感染症が広がり、政府が初の緊急事態宣言を出してから5年が経ち、感染症法上の位置づけが5類に移行して2年が過ぎた。至る所に外国人観光客があふれ、街はすっかり活気を取り戻し、私たちはようやく《コロナ禍の日常》を忘れようとしている。新型コロナウイルス蔓延という未曾有の危機を経て、国の感染症対策は変化を重ねてきた。

しかし、今となっては様々な情報が報道され始めているのが、従来のワクチンとは根本的に異なる新技術で開発された新型コロナワクチン

(mRNA 遺伝子製剤) による後遺症被害の問題だ。日本は一人当たり、世界で最も多く新型コロナワクチンを接種した国であり（総接種回数4億3600万回）、過去に例のない「新

薬」の認可と流通は、リスクを伴った賭けであったことが医学的に明らかになりつつあるのだ。

新型コロナワクチンは、コロナ禍での「希望の光」だったことは誰しも疑いようのない事実。しかし、ワクチン接種によって、感染者は減どころか増えたというデータさえある。なぜ日本はワクチンを打ち続けたのか？そして、現在も公に検証がされないのはいったい何故なのか？そこには、医学の盲点や限界のみならず、不都合な事実から目を逸らせるためのデータのトリック、アカデミアやメディアの政府に対する忖度など、日本社会のさまざまな問題が集約されていた…。

そんな中、新型コロナワクチン後遺症の影響を科学的に究明しようとする医師たちがいる。後遺症患者、遺族、そして当時のワクチン推進派など、様々な立場の意見を多角的にみることで、もう一つの現実が見えてくる。反ワクチン運動や陰謀論などとは一線を画す、科学とファクトに基づいた《驚愕の真実》。医学の祖・ヒポクラテスは「何よりもまず、害をなすなかれ」と言った。わたしたち自身に、盲点はなかったか？現実を受け入れ、疑問を抱き続ける覚悟が問われる。『ヒポクラテスの盲点』は今秋全国公開。

小栗旬、「彼らのモチベーションと志をちゃんと間違えずに伝えたい」 コロナ集団感染下の奮闘を描く主演作に真摯な思い

